



**お元気ですか!**  
**志村 たかよし**です

# 豊洲新市場の建設費 470億円増の 1100億円以上に



まだ既存杭撤去などの基盤整備工事をしています=9/30

整備費5500億円に

やっぱり!

築地市場「移転」は  
ゼネコンのため?

東京都が強引に進めている豊洲新市場建設ですが、このほど、中心的な施設となる売場棟3棟の建設費が、当初（11年11月）の予定価格から470億円（75%）以上も膨らみ、1100億円！を超える見通しとなることが明らかになりました。

当初の予定価格は628億円

昨年11月に、売場3棟の建設工事の入札が行われました。そのときの予定価格は、628億円でしたが、ゼネコン側が「採算が合わない」との理由で入札を辞退したため3件とも「不調」に終わっています。

2回目は1035億円にアップ

都は、ゼネコン側の要望を受け入れて、2月の再入札の時の予定価格を1回目より407億円（64・9%）増の1035億円にしました。

その結果、青果棟（5街区）は鹿島建設が、水産仲卸売場棟（6街区）は清水建設が、水産卸売場棟は大成建設がそれぞれ筆頭を務める共同企業体（JV）が受注し

ました。

落札率（予定価格に対する落札額の割合）は、平均99・87%と異常な高さでした。

「追加工事」次々発注で増額

都は、工事発注後の8月から9月にかけて、各売場棟の付帯建設

豊洲新市場の工事受注企業			
工事名	青果棟 (5街区)	水産仲卸売場棟 (6街区)	水産卸売場棟 (7街区)
施設建設	鹿島など7社 259.3億円 (99.96%)	清水など7社 435.5億円 (99.88%)	大成など7社 339.1億円 (99.79%)
付帯施設 基礎工事	鹿島など7社 15.3億円■	清水など7社 11.3億円■	大成など6社 6.5億円■
6・7街区 連絡通路			大成など2社 26.3億円 (99.73%)

(注)金額は消費税込み。( )内は落札率。■は随意契約

基盤工事、連絡通路工事などを相次いで「追加」発注しました。

主要4件の工事だけでも合計59億5620万円にのぼります。

都は、今後も「追加」発注する予定なので、工事費はさらに膨らむことでしょう。

### 整備費は5500億円にも！

「本誌 690号」でとりあげましたが、豊洲新市場建設をめぐっては、土壌汚染対策工事でも大手ゼネコンの談合疑惑が浮上しています。さらに、土壌汚染対策費や建設費の高騰で、整備費は当初(09年2月)の3926億円から5500億円に膨らむであろうことも指摘されています。

事業費の高騰は、都の市場会計の重荷になり、施設使用料などへの影響も心配されています。

市場関係者はもとより、都民・区民・消費者が反対している築地市場「移転」計画ですが、強引に進める背景に、ゼネコンなど大手企業の思惑があることは誰の目にも明らかです。



「守ろう！築地市場パレード実行委員会」が発行したパンフレットに、貴重な写真が載っていましたので転載させていただきます。豊洲新市場予定地は、56年から86年まで東京ガスの工場があったところです。左の写真は豊洲工場の全景で、下の写真は60年代の炉付近の装置です。この装置付近から高濃度のヒ素が検出されました。当時は公害という言葉も一般的ではなく、「敷地内に穴を掘ってタールなど汚染物質を流し込んでいた」と当時の従業員は話しています。高濃度の汚染は、土壌だけでなく地下水にまで広がっていますが、現在、基準以下になっているかは不明のままです。



## 汚染原因者(東京ガス)の責任は果たされているか？

### 最大規模の汚染「区域」

築地市場の移転先の豊洲用地は、東京ガス株式会社が石炭からガスを製造する工場跡地だった関係で(1956~1986)土壌から日本で最大・最高規模の汚染物質が検出されており、現在でも土壌汚染対策法に基づく「区域の指定」を受けています。

### 地下水にまで広がる汚染物質

豊洲用地では高濃度の汚染が土壌だけでなく地下水にまで広範囲に広がっており、土壌汚染対策工事が終わっても「2年間のモニタリング」を実施し、基準以下を2年間連続出来なければ「区域の指定」を解除できません。当然「安全宣言」が実現する気配もありません。

「意見」「要望など」お気軽に「連絡ください」(03-6390-0000)

稼働している頃(60年代)の東京ガス豊洲工場。晴海に住んでいた方の話しでは、風向きによっては臭かったと話します。